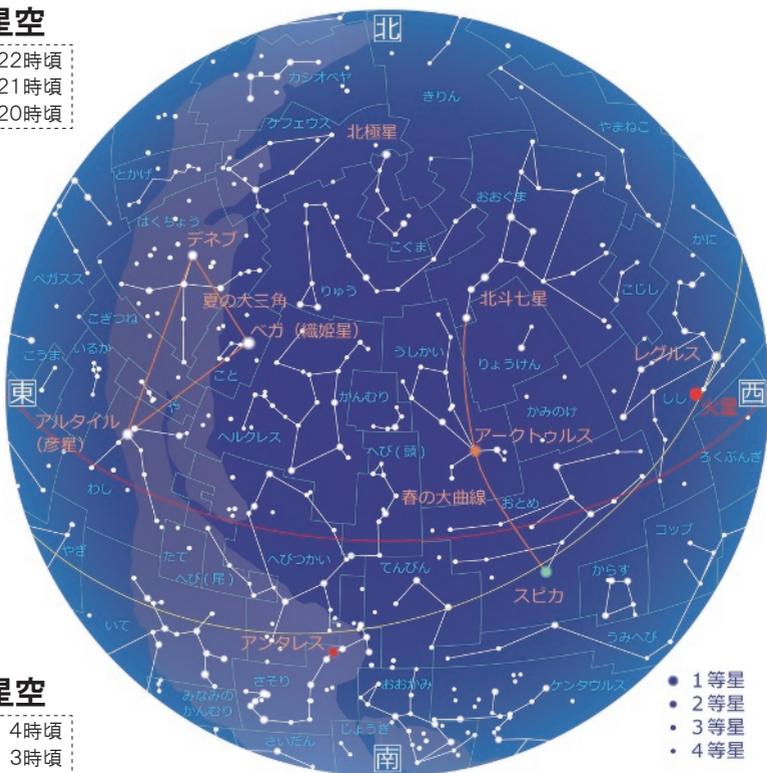


# 星空ガイド 6月16日～7月15日

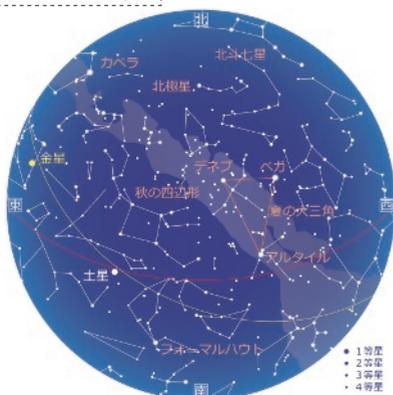
## よいの星空

6月16日22時頃  
7月1日21時頃  
15日20時頃



## あけの星空

6月16日 4時頃  
7月1日 3時頃  
15日 2時頃



- 1等星
- 2等星
- 3等星
- 4等星

【太陽と月の出入り(大阪)】

月	日	曜	日の出	日の入	月の出	月の入	月齢
6	16	月	4:44	19:13	23:02	9:01	20.0
	21	土	4:45	19:14	0:55	14:36	25.0
	26	木	4:46	19:15	5:02	20:22	0.7
7	1	火	4:48	19:15	10:34	23:05	5.7
	6	日	4:50	19:14	15:22	0:46	10.7
	11	金	4:53	19:13	19:53	4:41	15.7
	15	火	4:55	19:11	22:01	9:05	19.7

※惑星は2025年7月1日の位置です。

**幻の流星群、ポン・ウィンネッケ流星群**

1998年6月27日の日没後、明らかに普段よりたくさんの流れ星が観察されました。梅雨の季節ではありましたが、当日は新月近い土曜日であったので、晴れ間のあった地方では星見に出かけていた天文ファンも少なくなく、雲間に流れる流星が目撃されました。

普段から流星観測をしていた人は少なかったため、目撃情報にははっきりしない部分もありましたが、放射点の位置はうしかい座あたり、雲があるなかでの目撃情報ばかりでしたが、もし快晴であれば1時間当たり100個前後の流れ星が見られたのではないかと考えられています。この流星群は、ポン・ウィンネッケ流星群、あるいは6月うしかい座流星群と呼ばれる流星群の活動でした。

ポン・ウィンネッケ流星群という呼び方は、この流星群が、ポン・ウィンネッケ彗星(7P/Pons-Winnecke)から放出されたチリが地球と衝突して起こる流星群であるため、彗星の名前が流星群の名前に使われました。ポン・ウィンネッケ彗星は、1819年発見の比較的古くから知られる彗星ですが、20世紀初頭には地球軌道にかなり近づく軌道にあって、特に1921年に回帰したときには、地球に衝突する可能性があるのでは?という議論がされるほど地球に接近しました。(結果的には、地球に0.04AUまで接近したそうです。)1916年、1921年、1927年には、この彗星を由来とする流星が多く観察されました。しかしその後、ポン・ウィンネッケ彗星は木星の重力の影響で軌道が変化し、地球軌道にはあまり接近しない彗星となりました。ポン・ウィンネッケ流星群も、1927年の活動以降出現は捉えられず、流星の元となるダストの軌道も変化して、もう地球に衝突することも無いのだろうと思われ、人々の記憶から消えていこうとしていました。

しかし、1998年に何の前触れもなく突然に活発な活動を見せたことは世界中の流星研究者を驚かせました。さらには1998年の活動に触発されて、彗星ダストの運動を計算した結果、2004年にも再び活動が見られる可能性が指摘され、実際に出現が観測されたのです。

**飯山 青海(科学館学芸員)**

**[こよみと天文現象]**

月	日	曜	主な天文現象など
6	19	木	●下弦(11時) 明け方南東の空で、月と土星が約4.5°離れて並ぶ
	21	土	夏至(太陽黄経90°)
	23	月	土星が西矩 / 海王星が西矩
	25	水	●新月(20時) 木星が合
	27	金	夕方西の低空で月と水星が約2.3°まで接近
	30	月	夕方南西の空で、月と火星が約5°離れて並ぶ

月	日	曜	主な天文現象など
7	1	火	半夏生(太陽黄経100°)
	3	木	●上弦(5時)
	4	金	地球が遠日点を通過。太陽と地球の距離が年間で最も遠い。 水星が東方最大離角
	7	月	小暑(太陽黄経105°)
	8	火	未明、月没前の南西の低空で、月とアンタレスが約1.6°まで接近
	11	金	○満月(6時)